



梅光

題字は初代院長 広津藤吉先生

第51号

2019年(令和元年)6月28日発行

梅光学院同窓会

〒750-8511 下関市向洋町1-1-1

TEL/FAX 083-227-1111

編集発行人 片山 宣子

同窓会 E-mail jimukyoku@baiko-dousoukai.jp

<http://baiko-dousoukai.jp/>

印刷 (株) 三和印刷社

〒752-0927 下関市長府扇町9-1



旧英国領事館



生涯学習プラザ



下関駅周辺



門司からの眺望 (観覧車右に梅光学院中・高校舎)



壇の浦公園



春帆楼



赤間神宮

〈同窓会事務局開室〉

毎週火・金 13:00 ~ 16:00

TEL 083-227-1111

E-mail jimukyoku@baiko-dousoukai.jp

ホームページ

梅光学院同窓会

PC. スマートフォン対応

みことば〈31〉	泉選也牧師 … 2	卒業生は現在 …… 9
院長・学長挨拶	樋口 紀子 … 3	コール梅光 …… 16
会長挨拶	片山 宣子 … 5	第34回ソフトボール部OG会報告 … 17
第18回梅光メモリアルデイ		支部だより …… 17
	平良 美代 … 6	特別寄稿 ムトウヒロコ …… 21
追悼文 宮田先生を偲んで … 7		2019年度総会報告 …… 22
	渡辺憲司・岡村映子	同窓会入会式あいさつ …… 25

「みことば」

〈31〉

泉 選也

(下関バプテスト教会牧師)

「あなたはペトロ」マタイによる福音書16章18節



福音書を通じて最も多く登場する弟子はペトロです。彼の本名はシモンであり、ペトロというのはイエス様がつけたあだ名、アラム語の「ケファ」をギリシア語で言い換えたものです。ケファあるいはペトロとは「岩」を意味する言葉ですが、その「岩」と呼ばれたペトロのエピソードの中でも、非常に印象的なものの一つが、メシア告白です。「あなたはメシア、生ける神の子です」(マタイ16:16)。並行箇所のマルコではイエス様はこのペトロの告白に対して良いとも悪いとも言いませんが、マタイではそれを積極的に承認しているように見えます。「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建て、陰府の力もこれに対抗できない」(16:18)。

「陰府の力も対抗できない教会をあなたの上に建てよう」と言われたのは、カファルナウムという田舎町で漁師をしていたペトロです。中流層、どちらかと言えば下流に位置する日雇い労働者と同じくらいの稼ぎしか得られなかったペトロです。ガリラヤ訛りもどぎつく、律法について専門的な教育も受けていないペトロです。また性格的には、思いつきで行動してしまい、失敗も多く、イエス様をしょっちゅう怒らせるペトロです。実際に、この物語のすぐ後で、ペトロはイエス様から「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」(16:23)と

厳しく怒られてしまいます。でもイエス様はそんなペトロの上に教会を建てると言うのです。

ペトロというのはあだ名であり、それは「岩」を意味すると説明しましたが、厳密に言うと実は「岩」という意味ではありません。ギリシア語本文では「ペトロ」は「ペトロス」という単語であり、そのすぐ後に登場する「岩の上」の「岩」は「ペトラ」という単語です。そして本来、ペトラは「岩盤」とでも言うようなどっしりとした岩のことである一方、ペトロスは「石ころ」のことなのです。つまり、ペトロというあだ名は、「岩」の意味ではなく、「岩の断片、岩よりも小さな石、石ころ」という意味なのです。しかし、誤解してほしくないのは、イエス様がペトロをただの小さな石ころであると言っているわけではないということです。

ギリシア語には、他にも「石」という意味を持つ言葉があります。それは「リトス」という言葉です。このリトスという言葉が、聖書の中で使われる時は、そこまで大きくない石によく使われる言葉です。しかし、ペトロというあだ名は、そのリトスよりも、大きな石であることを意味する言葉なのです。従って、ペトロの意味は「小さな石、でもリトスよりも大きな石」という意味なのです。全然意味が分からないかもしれないかもしれませんが、「友達以上恋人未満」みたいに「リトス以上ペトラ未満」と言えば分かるでしょう。もつと訳が分からなくなってしまうかもしれませんが。



上田中町にある下関バプテスト教会



梅光学院学院長・大学学長 樋口 紀子

「The Learning Station CROSSLIGHT」竣工

2019年3月26日、大学開学50年記念事業の一環として大学に新しい校舎が竣工しました。名称は「The Learning Station CROSSLIGHT」。学生、教職員からのネーミング募集を経て、命名いたしました。

ペトロというあだ名は「とても岩盤とは言えない岩の断片、むしろ小さな石かもしれないけれども、私たちがイメージしている石よりは、遙かに大きくて、尊いものである」ということだと思っております。聖書の中には次のような言葉があります。「主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石なのです」(1ペトロ2:4)。ペトロというあだ名は、このような石のことではないだろうかと思っております。この箇所にあるように、人間は主を、イエス様を見捨てます。人間は小さいと思えるような者を見捨てます。私たちは今、この日本でそういう社会に生きています。特別に例を挙げる必要はないでしょう。イエス様が十字架刑で経験した絶望のように、人間にとって、誰かに見捨てられるということ、命が宿っていないただの石ころだと看做されるのは辛い事です。でも、そんな辛い状況のただ中に置かれていたとしても、私たち人間の命は、神にとっては、尊い生ける石である。決して死んではいない、生きている。その小さな石ころを、神は見捨てない。そうした恵みがペトロというあだ名には隠されていると思うのです。

そしてペトロというあだ名が「岩の断片」を意味するならば、その断片が集まって出来るものこそ教会なのです。「教会」と訳されたギリシア語はそもそも「呼び集められた者たち」という意味だからです。あるいは、教会はこのペトロに向けられたような「小さい石だけれども、神にとっては尊い生ける石なのだ」というイエス様の眼差しや福音を土台にしなければならぬのです。その時、教会は陰府の力に対抗することができるのです。人を石ころのように死んだものとして見捨てていく社会に、打ち勝つことができるのです。私たちは自分のことを見て「私は大きな流れに翻弄される、無力で小さくてどうしようもない石ころのようだ」と思ってしまう時があるかもしれません。しかし、イエス様は私たちのことをそんなチープな存在だと看做していないということ。それを伝える「あなたはペトロ」という言葉を、このあだ名を私たち一人一人が受け取っていきたいと思います。さらには他の人にも「あなたはペトロである」と呼びかけていきたいのです。同窓会の皆様も、そしてその同窓会が支える梅光学院が「あなたはペトロである」という福音に立つて、それを宣べ伝えていく存在でありますように。

「CROSS」は「十字架」と「舎の中もやわらかい「光」に人々が「交差する」という両方の意味があります。また、「LIGHT」は本学のスクール・モットーである「光の子として歩みなさい」(エフェソ5:8)の「光」(神様)を表わしています。そして、「The Learning Station」は、「東駅」という下関市の交通や教育機関の要所に立地し、これまで「も、これからも、地域と繋がり、共に発展していく本学の姿を表しています。実際に校舎の中もやわらかい「光」に包まれ、神様の光を感じながら、人と人が出会い、コミュニケーションや新しい人間関係が生まれることを意図している建物です。これは今、日本で一番注目されている若手建築家、小堀哲夫氏が設計して下さいました。校舎の中にはさまざまな工夫が施されています。例えば、狭い校地を有効活用するために、45度校舎を回転させ、ジクザグ廊下を作ることで人と人が交差するようになっています。壁にガラスを用いることやオープンスペースを多く作ることで、見る、見られる関係性の中で刺激を受け、自主的な学びを誘発するようになっています。その中で一人静かに勉強ができるスペースもあります。さて、本学の歩んできた50年間は社会情勢が大きく様変わりした激動の時代でした。とりわけ近年のグローバル化の進展やテクノロジーの発達



は今後も加速していくことが予想され、「今」の常識やシステムが通用しなくなり、将来の予測が困難な時代が到来します。このような時代を生き抜くためには、すでに存在する「正解」を見つけないのではなく、自分で考え、新しい価値を生み出していく力が求められます。

本学では、こうした動きを早くから見据え、学生たちの「考える力」や「新しい価値を生み出す力」を育むため、海外留学制度の整備やアクティブラーニング型授業の拡充など、体験・経験を重視した学びを展開して参りました。このたび完成した新校舎は、授業だけでなく大学生活のすべての時間において、また、教室だけでなくあらゆる空間において、体験・経験型の学びを可能にします。学生たちの感性を刺激し、学ぶ意欲を引き出すため、色や形状など細部にまでこだわりました。

援を行っています。このオフィスはT Sにとっては、共同研究室の役割も果たします。



2F ガラス張り教室

2階はガラスで仕切った教室がいくつもあります。オープンスペースもあり、そこから2階に上がる階段も教室です。立ち止まって授業を見ている教職員や学生もいますし、上の階から授業に参加している人もいます。また、365種類の椅子を配置し、学生たちはその体格やその日の気分によって椅子を選んで楽しんでいきます。

3階はすべてオープンスペースです。椅子もソファあり、

り、木箱(りんご箱)あり、床に直接座ることもあります。この建物のコンセプトは「学びを変える、働き方を変える、場が人を成長させる」です。今までの固定化された教室・事務室・研究室という概念を打ち破ることによって、新たな発想でこれからの学びと学生支援のあり方を追求していきます。

そして、1階のカフェ・レストランは地域の皆様の出入りが自由となっております。本学が新たな地域交流の拠点、そしてランドマークにもなりうると思っています。このように新校舎は下関の活性化に寄与することも視野に入れてお



外観ライトアップ(1Fカフェレストラン)

ります。

最後になりましたが、大学開学50年記念事業のためにご寄付下さった同窓生の皆様にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。新校舎はできましたが、大学全体を整備する工事は今後2年間続きますので、継続してご支援頂ければ幸いです。

このように、梅光学院大学の次の50年に向けた挑戦はまだ続きます。



外 観





会長挨拶

片山 宣子



んはどのようなイメージを持たれましたか？

私は「和やかしむ」「和えしむ」などの言葉が浮かびました。令和の『和』は、穀物と口です。平和は全ての人の食、つまり生活の安寧でしょう。経済発展で飽食と美食を享受する陰で、格差が広がり食もままならない、生活の維持が困難という人を生む現実があります。新しい時代はそれを解決できる時代であってほしいものです。

「令和」と元号が変わって初めての総会が開催されました。様々なことが報告・審議されました。ご協力をいただきました。ありがとうございました。

令和の代替わりは生前退位ということ、平成への改元時と違い明るく祝賀ムードいっぱい、多くのメディアもその気分を盛り上げていました。世の中、皆こぞって同調する風潮に私は違和感や怖さも覚えて、その陰に沈んでしまった様々な社会問題を一方で冷静に考えたいと思えました。ともかく私の三世代目「令和」は始まりました。さて、「令和」の元号に皆さ

しい令和の発展がそういう調和と進歩の希望で満たされたものであるように願います。

梅光学院は大学に新館が完成し、新しい授業が模索されています。新入生数は今年も定員を超え、354名と聞きました。完成内覧会の折、新館設計者の建築家小堀哲夫氏も新しい教育の発信の場としての挑戦の建物であり、教職員・学生たちが実際に建物を使用して気づき・要望を出すことで成長するとの旨を語っておられました。

樋口院長先生をはじめとして理事会が、これからきつと多くの多様な意見に向き合ってくださり新館と共に新しい教育を成長させて下さることだと思えます。

一方、中学校・高等学校・幼稚園は定員割れという困難の中にあります。下関市の人口のドーナツ化現象が進んでいることも関係しているのでしょう。市内に公立の高校が新規に発足したこと、公立との授業料の差も大きな問題でしょう。そんな難しい状況の中、中学校長も兼務されています。中

高でも新しい教育を打ち出しておられますが、なかなか成果に結びついていません。今年度生徒数は、中学校全体で70名をきり、高校全体で150余名と非常に苦戦されています。

私は学院あつての同窓会で、同窓会と離れた学院もあり得ないと考える者ですが、この困難の中、残念ながらも十分な協力体制を作り出せない状況です。主張に違いはあっても歩みより協力し合える点を見出し、同窓生の母校への思いも受け入れていただきたく思います。会長としてこれからも根気よく向き合っていくたいと思っています。

今回の総会で「同窓会の推薦する人物を評議委員会に入れる」という方針を承認いただけましたので皆様とともに力を結集したいと思えます。

また、例年申し上げておりますが、支部活動を活発にして組織としての同窓会をしっかりとしたものにするのも重要です。同窓会活動の基本方針は毎年の総会で話されますし、会員の意見を反映する良い機会です。出来るだけ多くの参加

をお願いするのはそのためです。ここ数年は5月に総会を設定していましたが、子育て世代の方は学校行事と重なることが多いとの意見をいただきました。その為来年度は6月20日(土曜日)に変更してみることになりました。案内を別紙刷りにして会誌とともに送ってほしいという意見も出しました。透明の封筒は準備できませんでしたが、別刷りの案内でお知り合いを誘って多くの人の参加が実現できるようにご協力をお願いします。支部の立ち上げと共に同窓会の要を皆さんでしっかりとしたものにしていきましょう。

最後になりましたが例年運営費へのご協力で心から感謝申し上げます。今年から振込料200円をご負担していただくこともこの総会で可決されました。ご負担をご理解ご了承いただき引き続きご協力をお願いする次第です。

向暑の候、皆様のご健康と平安をお祈りします。



第十八回梅光メモリアルデー

—メモリアルデーに寄せて—

平良美代(高5)



なさいました。いつもご自分のことは後回しになさっておられました。時には厳しいこともありました。時には厳しい人を愛された先生でした。先生のお側は安心していられる温かい場所でもありました。

時が流れ、同窓会の運営も若い方々が担うようになりました。これまで同窓会は多くの方々に支えられてきました。今、忘れてはならない方々のことを少し記したいと思えます。

赤司艶子さん(梅2卒)昭和32年から50年まで18年間、同窓会長として、「信仰・希望・愛、そして忍耐をもって生きなさい。これが梅光精神です。」といつも話され、同窓会の役員会のあり方を形成されました。

永松繁子さん(梅27卒)は東京支部で梅香崎女学校、光城女学院、生粋の梅光卒業の方、三つのグループをまと

め、高校・短大・大学卒の若い方々と共に力強い支部をつくり、また広津先生の学校運営を理解し、協力されました。同期の松隈佐記さん、平山静子さんと三名で度々アメリカのマッケンジー先生を訪問され、先生を喜ばせてくださいました。

大阪では堺にお住まいだった阿部君子さん(梅6卒)とご長男の奥様の敬子さん(梅31B卒)、姑と嫁のお二人で長い間大阪支部を支えてくださいました。

長崎では宮城道子さん(梅27卒)が妹さんの宮城行子さん(梅31A卒)と姉妹で長崎支部をつくり、梅光のルーツ梅香崎女学校、スタウト先生、留川先生を知る方で、何かとお世話になりました。ご高齢で長崎を離れるまで頑張ってくださいました。

この他にも多くの方々によって、同窓会は励まされ、支えられてまいりました。時間も労力も惜しみなく捧げてくださいました。なんの報酬もありませんのに、ただファミリーの愛の絆によって。

私たちは先輩方の母校へ、

同窓会へ尽して下さったお働きに心からの感謝を申し上げます。たいと思います。

— 2020年度予定 —

第20回 梅光メモリアルデー

日時 2020年7月4日(土)
午後5時の予定

場所 未定

決定次第 HP でお知らせします。

- ・礼拝
- ・佐藤泰正先生 DVD 視聴
- ・河田哲先生著「むねあかどり」朗読
- ・コール梅光合唱

— ご案内 —

第19回 梅光メモリアルデー

2019年7月4日(木)

時間 14:30

場所 下関市生涯学習プラザ(多目的ホール) 宙のホール

お話 「梅光女学院に感謝して」

聖書 ヨハネによる福音書

15章 4~5節

元同窓会会長 梶間真寿美(高7)

合唱 コール梅光

指揮 澄川 孝子(高23)

伴奏 田村 初音(高61音)

※写真を掲げる場所を設けます。
(旧教職員、卒業生など梅光学院にかかわられた方々の遺影をご持参下さい。)



宮田 尚先生 追悼



宮田先生

「先生はセカンドサービスが苦手」

渡 辺 憲 司

(自由学園最髙学部長・立教大学名誉教授)



「先生、ダブルフォールドが続いています。最初からセカ

ンドでいきましよう。」
三十年ほど前の山口市での教職員のテニス大会。多分準決勝の時だったと思う。テニスだけは、私の方が一日長？たる自信を持っていた。この時ばかりは、私がリード役であった。先生はゆるめてサービスをするということが苦手なのだろう。セカンドもファ

ストと同じくらいのスビードで入れようとするのだ。「もっとゆるめて慎重に」と

いっても先生には通じないのだ。いよいよこままって私は、ファーストサービスをやめた方がいいと進言したのだ。

その時の先生の表情が忘れられない。「お前には私の気持ちかわからないのか、俺はテニスを楽しんでいるのだ。」

先生はむっとした表情をしていた。

温厚な人柄であったと多くの人は云う。たしかにそうかもしれないが、私にとっては、むしろ「頑固者」という印象が強い。それはテニスばかりではない。酒席も絶対、先に帰ると云いださないう頑固者であった。

私が赴任した時、私は三代前半、先生は四十年代前半であった。

よくもまあ、あの頃、あれほど飲み歩いたものだと思う。日文の教員会議が終わると、決まって唐戸に繰り出した。一番若かったのは中野君(あえて君と呼びます)次が私、今浜さん。その次が岡田さん、安森さん(ここまではさん)。

森田先生・宮野先生そして宮田先生、この三人はほとんど同じ年代だった。

中野君にそっくりのお父さんがやっていた食堂「六三四」が口開け。酒の飲めない森田先生も加わり、歌の席では芸達者ぶりを発揮していた。たしかお父さんが旅芝居の台本を書いていたなどと自慢？していた。安森さんは、豪快な

飲みっぷりで最初から「もう一軒、もう一軒」と叫んでいた。議論好きで腰の据わっていたのは宮野先生だった。岡田さんは、冷静沈着、会計係に決まっていた。やや新参の今浜さんは不動、唐戸の水先案内が中野君。

そして宮田先生は、間違いなくこのメンバーのリーダー。律儀で頑固だが、強権発動などといったリーダーではない。アニキという感じだった。私は、宮田先生の「金魚の糞」弟分というところだった。何しろ、「遅くなったが宮田先生に誘われた」という言い訳は妻に絶大なる信頼だった。

下関での永住を心に決めて、分不相応の家を文教台の丘の上に建てた。その時、飲み仲

間から新築祝いにと無垢の木製食堂テーブルを贈られた。今では老夫婦二人に大きすぎるのだが、下関の思い出がいっぱい詰まっている。

酔った勢いだった。先生から「酔っぱらって下関で泊まる一間を新しい家に用意しておいてよ。」と云うありがたい注文があった。二階の廊下に三畳ほどの茶室風の一面を用意したが、先生はそこに泊まることはなかった。奥様が山口的家から車で迎えに来たのだ。うらやましい限りであった。

家を建てた直後に東京に行くことになった。始めは単身赴任であった。どこかにいずれ下関に帰ってくると云う思いがあったのだ。

訃報を聞き急ぎ吉敷の古刹に向かった。山口の陸上競技場の前を通った時、先生が試合前、高い壁に向かってサービスの練習を繰り返していたのを思い出した。あれもファーストサービスだった。



宮田先生を偲んで

岡村 映子
(短日6)

昨年10月21日の早朝、その訃報は届きました。19日の夕方、先生から「今月の講義はお休みにします。」とのメールをいただいたばかりでした。お見舞いに伺う予定にしていたその日が、先生との最期のお別れになってしまいました。83歳でした。棺の上に、テニスラケットと、読みかけの「平家物語」の本が置かれ、二ヶ所に付箋が貼られていました。ご子息に、「平家物語講座のことを気にしていました」と伺い、病床でも私たちのことを気遣ってくださっていたことを、有難く思いました。

宮田先生には学生時代、「今昔物語集」を教えていただきました。本に書かれていることだけでなく、それにまつわる話や、似た話などを織り交ぜながら話してください、物語の世界がどんどん広がっていくのを感じたものでした。卒業後再び先生の講義を受

けることになったのは、生涯学習センター(後のアルスメ光)でした。20数年ぶりにお会いしたのに、覚えていてくださり、あまり真面目に勉強していなかった自分を恥じ入りました。それから約20年後、改めて受講生となり、「平家物語」を学ぶことになりました。

5年程前に、「検査で、すい臓に影があるので様子見です。」とおっしゃり、その後も変わりなく講義を続けられました。抗がん剤の副作用だからと、髪が薄くなったことや、足の痺れなどを、何事もないように話され、ずっと立ったままお話をしてくられました。長年テニスも続けておられ、最後の入院前日までラケットを握られていたと伺いました。

どんな時でも自然体で、全てに真面目に取り組まれ、毎朝4時に起きて、読書や原稿を書かれたりの日常だったそうです。

昨年の初めごろから、病気が病気だからと、時間を惜しむように講義をされていきました。きっと先生は、毎回「これが最後の講義かもしれない」という気持ちでおられたので

はないかと思えます。

長年取り組んでこられた、赤間神宮での「長門本 平家物語を読む会」を、昨年4月に読了し、「源氏シンポジウム」では締めくくりの講演をされました。まるで、ひとつひとつの仕事を、整理するように終えられています。

「下関で平家物語を読むことに意味がある」とおっしゃり、歴史の舞台で生活していることを感じさせていただきました。又、「時の流れの中で、あふれる情報の中から、信ずべき情報と、信じてはならない情報を冷静に分別することが、いつの時代にも大切な生きる知恵だ」と教えてくださいました。

平家物語の講義が始まってから、毎月いただいていた先生の随筆「(平家)余聞 海峡からの展望」が、No.211まで全て手元にあります。今後はこれを改めて読んでいくつもりです。

先生からいただきましたご恩に対し、深く感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2018年度(2019年3月迄に)お知らせのあったご逝去者名(49名) 御霊の上に、そしてご遺族の上に神様のお慰めのありますように。

旧職	伊原 昭	2018.5	高2	田上 美子(伊藤)	2018.10.26
旧職	宮田 尚	2018.10.21	高5	大河原 愛子(沖田)	2018.11.24
旧職(高8)	力丸 徳子	2018.12.29	高5	上田 寿美子(茶谷)	2018.3.10
旧職	森田 進	2018. 7.27	高5	上田 玲子(湯田)	2018.12.7
旧職(梅28)	野々村 佳子	2015. 8.13	高6	国永 富佐江(柴田)	2018.11.1
梅19	荒谷 三千子(楯原)	逝去日不明	高6	妹川 紘子(多々見)	2018.8.26
梅21	垣本 チエ子(無敵)	2018.10.31	高7	森田 敏子	2019.1.8
梅26	徳増 多美子(増井)	2018.12.26	高8	山縣 三智子(勝野)	2018.1.23
梅29	山本 慰子	2017.3.26	高8	島田 敬子(藤田)	2018.7月末
梅29	藤井 みどり(柏木)	2018. 5.3	高9	田村 千世子(田中)	2018.10.11
梅29	古賀 達子	2018. 12.16	高9	高山佳代子(島中)	2018.10
梅30	柴崎 トキ子(松村)	2018. 9.6	高9	田中 明子(原)	2018.5
梅30	坂部 輛子(大野)	2018.7.30	高12	松本 敏子(出口)	2018.9.26
梅31	木村 敦子(山口)	2017.5.22	高13	冨田 歌子	2018.8.23
梅31	上野 田鶴子(岡山)	2017.5.21	高14	長谷部 泰子(川口)	逝去日不明
梅31	斉藤 年子(弘田)	2017.12.19	高16	武藤 静代(平山)	2018.5.1
梅31B	緒方 房子(鈴木)	逝去日不明	高18	星野 素子(野田)	2017.10
梅32B	土田 昭子(井上)	2015.11	高24	橋本 恭子(織皇)	2018.3
梅33	有光 須美子(上野)	2017.	高25	石井 紀子(木村)	2018.9
梅33	小林 美栄子(松本)	2019.5.2.	高25	吉田 光子	2018.3
梅34	河村 二三子	2018.8.19	高(音)	田村 優子(真野)	2019.1.13
梅35	岡松幸子(村田)	2018.9.10	高29	綿谷 倫子	2011.9.14
高1	下嶽 紀久子(北村)	2018.11.6	高33音	高橋 寿美乃	2016.
高2	池田 裕子(長田)	2019.1	短英9	小川 久子	逝去日不明



卒業生は現在

旦那は二番

森田 朋子 (高11)



地域の小学校へ俳句の授業に出向いた時だった。「こちらは梅大生の〇〇さん、4月から北九州市の教員に採用が決定しています」と、一人の若い女性をコーディネーターが紹介してくれた。

このコーディネーターから小学校の依頼を受けて、俳句仲間と二人で六年生に俳句の授業を続けて10年になる。校庭の隅にロープを掛け、大きな模造紙に俳句の簡単な約束

事や例句を書いて吊るし、二クラス一緒に俳句の授業を始める。担任の先生や生徒に交じって〇〇さんも目をキラキラさせて耳を傾けてくれる。

その後グラウンドに出て遊具や校舎、眼下の関門海峡、工場街、背後の山々を眺めながら俳句を作る。俳句を作るために自然に触れながら散策すること、を吟行というが、正味一時間足らずの吟行だったが、生徒は幹に耳を寄せたり、地面に顔を近づけたり、指を折り、どンドン作って見せに来る。時々〇〇さんの様子を窺う。

市の指定校になっているので、北九大や他の私立大で小学校教諭を目指している学生に出会うこともあったが、梅大生は初めてだった。生徒全員にさり気なく気を配り、自分も何かを作り出そうとする彼女の直向きな姿に好感を持った。

その日の句は仲間と二人で整理、選句し、名前を伏せてクラス毎に一覧表に印刷する。一週間後、それぞれのクラスで句会を開くが、この句会で担任も生徒の意外な一面に気付くことが多い。〇〇さんも

初々しい新鮮な句を作っていた。

後日コーディネーターから「北九州市内では梅大卒の評判は良いですよ。私の知っている男子学生も言葉では表現し難いけど良い物を持ってますよ、きつと良い教師になると思います」と、聞いた。近年になく母校の事で感動した。

10日程前、京都からKさんご夫妻がお見えになった。Kさんとは60年前に一緒に梅光学院高校を卒業し、その後もお付き合いが続いている。居酒屋でジョッキを片手に河豚刺しをつまみながら、55年連れ添った夫が「お互い、旦那より神様を大切にする女房と結婚したとは〜〜〜」と、ぼやいた。すると「それもいいじゃないですか。相手は神様ですから勝ち目はないですよ」と、元大学教授のK氏は明るく返してくれた。

天気の良い日はリュックに弁当を詰め、重い望遠レンズを抱えて、花や実に寄る野鳥や水辺の翡翠を追いかけている。時々ポケットから句帳を取り出し授かった句を書き留める。

今ある平安の日々は若い頃、たった三年間だったが梅光時代に神様と出会ったことが始まりであると感謝している。

人生の第三幕を郷里・北九州で

大塚 順子 (大日10・院5)



郷里・北九州小倉へ戻ってもうじき6年になります。現在は、自分の書道教室の運営を中心にカルチャーセンターでも書道と中国語の講座を担当させて頂いています。自分を鍛えるための展覧会活動も継続していて、昨年、日展入選回数が10回目となったのを機にまた新たな作風への挑戦も試みたいと考えているところです。

少し遡った話になりますが、結婚して東京に移り住んだのは33年前のことでした。東京での暮らしは全て何も無いところから築き上げたという思いでいましたから、高齢の母のことを考え、そろそろ小倉に帰らなければと思いつつも、生きがいでもある仕事はどうしても手放しがたく、九州への転居を決心するまでに5年もの歳月を要しました。

さてここからは小倉に戻ってからのお話です。まずは仕事を軌道に乗せ、4年後には還暦記念の個展を開くことを当面の目標にしました。それを実現するために86歳になる母は私達のために週2回の夕食作りを、夫は家事分を買って出してくれ、私は仕事に専念することができました。母の頑張りや91歳になった今も続いています。高齢となった母のために転居を決めた私達でしたが、逆に私達が母に支えられ、母の方は娘夫婦のための食事作りという新たな役割を得て以前よりもいきいきと暮らしています。そして還暦の個展も無事に開催することができました。



梅大書道部・書道課程卒業生による
第23回 風信会書作展

会期 2019年10月26日(土)～27日(日)
 10:00～17:00 ※最終日は16:00まで
 会場 やまぎん資料館(下関市観音崎町10-6)
 TEL 083-232-0800
 連絡先 堀山 貴子 TEL 083-927-0120

ところで私が書道と中国語

の世界へと導かれたのには梅大での吉野先生との出会いが大きく関わっています。入学した昭和51年当時、書道課程には吉野松石先生と田中江舟先生というお二人の先生がいらっしゃいました。漢字書道が好きだった私は在学中から吉野先生の書塾に通い、卒業後、展覧会活動に入りました。また、吉野先生率いる書道訪中団に加えて頂き、それが中国語との出会いとなり、結婚後、東京で中国語教員資格を取りま

した。

親元で暮らした独身時代、結婚後の東京暮らし、そしてUターン。いよいよ人生の第三幕が始まりましたが、この第三幕には思いがけない展開の可能性も芽生えています。その一つが「レクダンス」との出会いです。簡易性、自由度、創造性を特徴とするこのダンスは適度な運動量と楽しさで大好きになり、機会があれば他の人にも紹介したいと思うから指導者の資格を取ることにし、先ごろ4級検定に合格したところです。また地元ならではの書作活動も始めました。小倉に縁のある杉田久女の俳句との出会いから、2年後に迎える杉田久女没後75年の節目の年に久女の句をテーマに書展を計画、既に準備に入りました。

これからこの第三幕がどんなふうに展開していくのか、また更にどんな新たな出会いがあるのか私自身もとても楽しみにしています。

最後に書展のご案内です。梅大の卒業生による「第23回風信会書作展」をやまぎん資料館で今秋開催いたします。

卒業生の皆様のご来場を心よりお待ちしております。

支えられて感謝の今

名切元 貴美子
 (大英9)



1979年3月に梅光女学院大学を卒業、4月から4年間長崎県の五島列島の中学校と高等学校で英語教諭として、教員人生がスタートしました。たいへん充実した有意義な時間であった一方、一生懸命に頑張るほど教壇に立つにはあまりにも未熟な私がいまいました。その後1年間アメリカで、現在のALTの逆の立場で現地(幼稚園・小学校・中学校・高校)の先生方と授業を行うというチャレンジを選択しまし

た。帰国後、梅光女学院中学校・高校で英語教諭として教壇に立つご縁をいただき、公立学校では経験できない多くの学びに恵まれました。1985年4月から32年間、長崎県の公立高等学校に勤務し、定年退職後は長崎県立大学の特任教員として、大学生と共に新しい学びの機会を得ることとなりました。全力で走っていたころには意識することはなかったけれど、振り返り気が付いたことは「梅光での時間は私に不可欠だった」ことです。

「女性活躍」などという言葉がなかったころから、男性社会である学校の中で女性は立派に活躍していました。しかし、女性教員は将来責任ある立場で仕事をする人材として育てられることはありませんでした。ところが時代の流れででしょうか「女性活躍」が叫ばれるようになると、何の取柄もない普通の教員である私が管理職員として仕事をすることになりました。教頭職を経験したことで、自身が教諭として存分に仕事ができることに感謝し、生徒達と先生

方の支援に徹する覚悟ができました。そして、とても狭い視野で仕事をしていたことを深く反省しました。特別支援学校と総合学科高校での校長職、手も足も出ないフィールドでは、それまで大鈍を振ってきた私の価値観は通用せず、「学び、自身を変える」という選択肢しかない現実を突き付けられました。女性活躍の場が広がることは素晴らしいことです。しかし、それは女性に本物の戦力になってほしいということ、「厳しさ」と「覚悟」が求められていることに他なりません。期せずして就いた管理職ですが「置かれた場所ですら私らしく咲く」ことの素晴らしさを知ることになりました。また、It was great (素晴らしかった)とは言えませんが、It was not so bad (そんなに悪くなかった)であつたと思います。50代での修行格闘は、私にはすべて必要な経験でした。

さらに、定年退職の先には素敵な出会いがありました。ま x に「The best is yet to be」(最上なことはこれから起こる)です。高等学校で大切



に育てられた大学生と英語の講義を通して向き合う日々と研究者でいらっしやる大学の先生方との時間はたいへん刺激的です。これまで多くの良き出会いに支えられてきたことに感謝しつつ、今できることを誠実に努め、恩送りにつ

愛と情熱のイタリア
そして音楽

峰 松 佳乃子
(高59 M科31)



「君、イタリアでピアノ弾いたら？」

初めてのイタリアでのピアノのレッスンで、のちに私の先生となる方のこの一言で、イタリアで音楽の道を歩くと決めて、気がつけばここまで来ていました。

なげていきます。定年退職前に3年間勤務した高等学校は「美しい大人へ」をスクール・スタンダードとして人づくりに取り組んでいます。多くの「美しい大人」達に恥じない「美しい老人」を目指した学びを続けてまいります。

梅光の音楽科で3年間学び、国立音楽大学のピアノ科を卒業したのち、イタリアに渡ったのが2011年のことです。

高校在学中から漠然とではありましたが、いずれ海外で音楽を学びたいという思いはありました。大学を卒業してすぐ、ひよんなことからイタリアでレッスン受ける機会があり、そこで出会った今のピアノの先生について行こうと決めて、そのまま移り住んで早いもので丸7年が経ちました。現在私が住んでいるマントヴァと言う街は、イタリア北部のロンバルディア州にあります。

ヴェルディのオペラ「リゴレット」ゆかりの街であり、シェークスピアの「ロミオとジュリエット」にも登場します。

とても小さな街ではありませんが、歴史が凝縮された街で、街の人たちは皆さん音楽、芸術活動に積極的です。私はこのマントヴァにある国立ルーチョ・カンピアーニ音楽院の修士課程に在籍しています。

2015年にピアノ科を修了し、現在は再び音楽院の修士課程で室内楽を専攻し、主にヴァイオリンとピアノのデュオの領域を勉強しています。

室内楽の先生がヴァイオリニストで、私と一緒に弾いて下さるといってすごく贅沢なレッスンで、2年前には先生とリサイタルで共演する機会にも恵まれました。

今現在も先生とデュオを組んで、レッスンの傍ら、演奏活動も行なっています。そして、私がイタリア行きを決めたきっかけを与えて下さったピアノの先生ですが、もちろん現在も師事しています。

先生とのレッスンも8年目に入ろうとしています。普段の先生はとても愛情溢れる方で、レッスンになるととても情熱的です。そして、

とても丁寧なレッスンで、且つどうしたら等身大の自分を音楽で表現できるかを一緒に考えて下さいます。そして、レッスンの中で先生は私が持っているものをどんどん引き出して下さるので、私も自分の知らなかった部分を垣間見ることもできます。毎回のレッスンがまるで冒険です。

先生も弾いて聴かせて下さいますが、先生の音楽は基本的な音楽のラインは決して崩さないのですが、とても表情が豊かで、まるで話しているかのような感じです。

さて、マントヴァでの暮らしですが、とても静かな街で比較的治安も良いので住みやすいです。

住み始めた当初は、音楽院でのレッスンについていくのに必死で、とにかくがむしゃらだったのですが、今は、レッスンのあとバールに行つて、お菓子を食べ、ジュースを飲み、ヨーロッパ建築の綺麗な街並みを見ながら街中を歩くのがもっぱらの楽しみで、

あとは日曜日の夕方、音楽院で同じ門下の友達とふらりと街中に繰り出してジェラー



トを食べに行くのも外せない楽しみで、

長く住んでいますが見慣れた景色であっても歩くのが楽しいのです。それに、地中海性気候でいつも天気が穏やかなので、周りのイタリア人も陽気で大らかな人が多いです。

私は元来マイペースで細かいことを気にせず、いつも「そのうちなんとかなる」と思っている人なので、のびのびと過ごしています。

そして、ご縁あって、3年前からマントヴァの音楽教室で子どもたちにピアノを教えています。まさか、自分がイタリアで



指導者になると思ってもみま
せんでしたが、週に2回、子
どもたちとピアノを弾いてい
ます。目をキラキラさせなが
ら楽譜を抱えて、「先生、来た
よ！ピアノ弾こう！」とレッ
スンにやってくる子どもたち
を見ると、なんとも嬉しくな
るものです。

私もまだまだ手探りの状態
ではありますが、一生懸命ピ
アノに向かっている子どもた
ちに、教えるこちらもついつ
い熱が入ります。

海外に住んでいると、もち
ろん色々なことがあります。
こんなはずじゃなかったと思
うこともあり。でも、イ
タリアって、マントヴァって
すごく良い所なのです。時々
起こるハプニングも含めて毎
日が刺激的で楽しいのです。
飽きないのです。

7年前のあの日、「えいっ！」
と勢いだけで一人飛行機に
乗ってイタリアにレッスンを
受けに来ました。イタリアの
公用語は当然イタリア語、目
にする看板なども

全てイタリア語。イ
タリア語は大学の
授業で文法を少し
かじっただけ。今
思えば、なんとも
無謀なことのように
に思えますが、私
が音楽院に行く
決めてからは、1
年かけて、就学ビ
ザの申請の合間を
縫って、大学時代に
使ったイタリア語
の教科書を引っ張
り出して文法の勉
強をし直しました。
会話は、現地でと

にかくネイティブのイタリア
人と話す時間を多くすること。
私が住んでいるマントヴァは、
日本人がほとんどおらず、今
通っている音楽院も、私が唯
一の日本人という環境なので、
マントヴァにいたときは100%
イタリア語だけで生活してい
ます。7年前の先生のあの一
言がなければ、私は今頃どこ
で何をしていたのかなと、ふ
と考えることがあります。あ
の時に先生が背中を押して下
さったので、今の私がいるの
です。

先生は、マントヴァでの家
探し、就学ビザの申請にあつ
ての必要な書類を揃えて下さ
り、何から何まで、惜しみな
く協力して下さいました。今
でも本当のお父さんのようで
す。

そして、今自信を持って言
えることは、イタリアで音楽
の道を歩くという自分の選択
は決して間違っていないなかつた
ということ。それに、「音楽」と言うのは
楽譜に書いてあることを楽器
で弾くことだったり、音源を
ひたすら聴くことだけではな
いと思うのです。

恋であったり、情熱であつ
たり、日々の生活の中で受け
る刺激であったり、その時に
自分が感じた気持ちや感覚も
音楽の一部だと思うのです。
それをいかに自分の方法で(私
の場合はピアノですが)最大
限に表現できるか。

「自己肯定感の低さや、
反発心、全てを糧に」

泉川道子
(高37)



私は今、三重県にある学校
法人愛農学園農業高等学校(以
下愛農高校)で教頭をしてい
ます。
全国にはおよそ300校前
後の農業高校がありますが、
私立の全日制で農学科のみ、
そして全寮制の高校は本校の

今も、そんなことを考えな
がら、イタリアの輝く太陽の
下、ピアノを弾き、街を歩き、
美味しいイタリア料理を食べ、
いろんな人と出会い、恋をし、
感性を磨きながら、日々音楽
の道を歩いているところです。

みです。また愛農高校は、農
業をしつつ聖書を土台とした
人格教育を行う、キリスト教
主義学校でもあります。

なぜ私がこの、希少な特徴
を持つ学校に導かれたのか、
それは一本の電話から始まり
ました。「みっちゃん、農業
高校で音楽教諭と女子寮監の
両方できる人を探してんねん
けど、あんた行ってくれへん
か?」。関西弁丸出しの電話の
主は、梅光時代の恩師、橋本
るつ子先生でした。「三重県?
農業?寮の舎監?」全てが
謎でしたが、とにかく私は2
日後の休みの前夜、その学校
を見学に行くべく夜行バスに
乗っていました。
2月の愛農ヶ丘はとても寒
く、校長室もとても寒かった
けれど、少人数教育であるこ
と、男女共学で混声合唱教育



にチャレンジできること、当時裏庭で小さな畑を作り、土いじりは心の栄養にもなることを自覚し始めていたこと、などなどから愛農高校に行くことを、その面接で決めて来た気がします。

私が今、高校で教頭をさせていたでいるなど、私が梅光生の頃をご存知の先生方には到底恥ずかしくて言えないという思いしかありません。なぜなら私は決して良い生徒ではなかったという自覚があるからです。当時中央町のルー

テル教会牧師館に住んでいた私は、ほかの誰よりも近い場所に住んでいるにも関わらず、誰よりも遅く学校に行っていました。高1の昇降口はチャペルに続く長い廊下の途中にあったのですが、そのチャペルに朝拝のために向かわれる河田校長先生と鉢合わせすることも度々で、高1担任だった松隈先生には特にご心配とご迷惑をおかけしましたこと、この場をお借りしてお詫び申し上げます。勉強も真面目にしていたとは言い難く、高3担任の伊藤先生には「あなたには推薦する学校がありません

ん！」と言われる始末。それでも当時何一つ取り柄がないと信じていた私の心に、「みっちゃんの笑顔は最高に素敵やね、その笑顔に励まされちゃう人、多いんよ」との言葉を滑りこませてくださった田中美紗子先生のお陰で何とか自分の存在意義を見出し、「笑顔？そんな簡単なことでいいん？じゃあ私はこれからどんな時も笑って生きよう！」と前向きに挫けずに高校生活を全うできました。

愛農高校に赴任してからの20年、17年間の間に11回担任を持つ中で、自分に自信がない生徒、素直になれずつい暴言を吐いたりする生徒などひとりひとりの中に当時の自分を見出し、忍耐強く接するこ

とができたのも、梅光の先生方が当時の私に忍耐強く、愛を持って接してくださったお陰だと思えます。ありがとうございました。現在担任として高校生と格闘することはもうありませんが、これからはこの愛農高校が今後も日本の社会になくしてはならない学校であるために、微力ながら力を尽くして

いければと考えています。あの時もしるつ子先生が私の事を思い出して下さらなければ、今の私はありませんでした。今、連れ合いと小学5年生の娘に恵まれ、日々美味しく食卓を囲んでいるのも、梅光の

梅光で得たもの

里 豪大 (高70)



梅光学院高等学校を卒業してちょうど一年が経過しました。私は地元の下関市立大学へ進学し、今は大学で経済学を学ぶとともに様々な活動を通して社会勉強をしています。

高校生時代と現在の大きな違いは、やはり責任です。高校三年生の受験期に先生方か

先生方の、そして神さまのお導きです。梅光学院がこれからも神さまのみ言葉を伝える、地域に無くてはならない学校として持続していきますように、同窓生の一人としてお祈りしております。

ら繰り返し言われたことではありましたが当時は責任がどういうものか明確に把握できていませんでした。高校を卒業し社会の一員となった現在では、その責任を感じる場面になんども遭遇しました。私

面、自由もありアルバイトなどでお金を稼いだり、車を運転して遠くのところを観光したりすることの楽しさも知りませんでした。一年間、塾講師をしており生徒に問題が解けるようになる楽しさを伝えると同時に勉強を教える大変さを実感しています。この仕事を通して、中学や高校の恩師の偉大

さに感謝しています。

梅光学院中学校に男子1期生として入学し6年間を梅光で過ごしたからこそ得られたことも多くあります。梅光時代の印象的な思い出は数多くありますが中でも特に印象的なのは、中学生になりたてで行ったオリエンテーションキャンプと高校3年生の時の体育祭で体育祭実行委員長を務めたことです。オリエンテーションキャンプでは、その前日までまだ仲の良い友達も思わず不安を抱えながら過ごしたことを覚えています。その中で初めて触れる聖書という本について学びつつ男子だけで野球をしたことがとても嬉しく楽しかった思い出です。当時担任をしてくれた先生や同行していた男性の先生方も、梅光で男の子と遊ぶことができると思ってたのと喜んでいたり嬉しかったんです。

梅光では元々体育祭という形ではなくスポーツデーという形で全校で運動をしています。私が中学2年生のときに体育祭という名目に変わりました。さらに高校3年生

の時の校長先生の意向で生徒主体の体育祭になり、いい機会であり思い出になると考えて実行委員長に立候補しました。これまで先生方にすべて任せていたことを自分たちの協力した力のみで、計画し実行するのは右も左もわからない私たちにとっては非常に大変な取り組みでした。ぶつかつて意見が分かれたり、想定と現実が一致しないもどかしさ

などを乗り越え成功で収めた時の喜びは、今までに経験したことないほどの達成感がありました。

梅光で得たのはキリスト教の教えだけでなく、7年経過した今でも深い交流のある友人や先生との交流など多くを学び得ました。これからも勉学に励むと同時に様々なことに感謝しながら過ごしていきたいと思います。

「祈り」

大隅(山田) ゆかり
(高29)



入江口から丸山の坂を正面に見上げると、暗闇に浮かぶツリーの灯りがクリスマスアードヴェントの始まりを毎年教

えてくれます。在学中のクリスマス礼拝の中でも、高校最後のハレルヤ合唱は誰もが思い出深い礼拝になっているのではないのでしょうか。

中学入学式の後、クラス分けされた教室の中でひとり顔色がすぐれず、大変な病気をかかえていることが一目でわかるクラスメイトがいました。ある日彼女が「あなたの名前を書いて欲しい」と小さな手帳を差し出すので何事かと尋ねると、日本屈指の心臓外科医の執刀を受ける為、近く上京するというのです。彼女はクラス全員の名前と言葉を手帳に納めていました。クラス全体が友達と呼び合うには、

入学からまだ日が浅い時期でしたが、それでも彼女にとって手帳に納められた友人たちの言葉は、手術に対する支えのひとつになったのだと思います。今だにあの時の十三歳の少女がどんな覚悟であったか、どれほどに祈ったか想像しても、しきれません。そして、彼女は手術が大成功だった事がわかる様子でクラスに戻ってきました。再会の日の教室は静かでしたが喜びに満ちていたことを覚えています。

梅光というところは門を一步入るとそれまで経験した学校とは違った空気に包まれていることを入学当時から感じていました。最近、同期の友から聞いた話ですが、広津院長先生は毎日、全教職員の名前を挙げ学院の為に祈りをしていてくださいます。梅光は単なる教育現場ではない、目に見えない祈りに支えられた学校だったとその友は言います。私の感じていた特別な空気はそれだったのかもしれない。高校2年の学期末、突然天国に召されるまで、彼女もその祈りに満ちた学院で何事にもまじめに懸命に向き合



い生活をしていました。高校3年のクリスマス礼拝が近づきハレルヤの練習にも熱が入る頃、休み時間に何人かで談笑中、「ハレルヤは亡くなったワカちゃんとも歌いたかったね」と誰かが言ったその一言で、気づけば私達は校

長室の前に立っていました。

私達は「ハレルヤ合唱の時、ワカちゃんの遺影を持って一緒に歌いたい」と訴えました。静かに聞いてくださった河田校長先生は、「遺影を持つとして、それを持つ生徒はキャンドルは持てますか?」と尋ねられました。私達が、それは難しいかもしれないと答えると、「それでは許可できない」と言われました。そしてこう続けられました。「キャンドルの灯りはあなたたちの内にある光であり、あなたたちの命を意味します。ハレルヤを歌う生徒は全員がキャンドルを持って礼拝に臨まなければなりません。遺影を持つ生徒もキャンドルを持てる工夫をしてください」

丸山にツリーの灯りがともるとこの時のことが思い出されます。

灯りは先生方や生徒達が学院で捧げてきた祈りのようにも感じられます。

私達の卒業アルバム最後のページでは、生徒全員がワカちゃんとともにキャンドルを持ってハレルヤを合唱しています。



「おはなしと私」

野口 紋(田中)
(高41大23語8)



私は大学卒業後、博多でコンピュータ会社の営業職に就きました。男性社会の中で認められたい、負けまいとよいをかぶってがむしゃらに働きました。四季の移り変わりを感ずることもなく、徹夜続きの日々を送っていた私が、まさか子どもに関係することになるようなこととは当時1ミリも考えたことはありませんでした。

そんな私が変わったのは、子育て支援センターでの出会いでした。本が苦手だった私は娘が本好きになるようにと思つて絵本にふれる会に入つてわらべうたや絵本について

学び始めました。最初は本好きに、賢く育つようにという動機でスタートしているの頭で考えてばかりで、この話は何が言いたいのか、どう役に立つのかという視点で絵本を見ていました。ある時先生から「頭で考えるのではなく、心で感じなさい。」と教わりました。この一言で氷のようにながたがただった私の心が少しずつ溶けていくようになりました。すると、今までは目にも留めなかった草花や木々や鳥の声、風の音、ゆつくりと暮れてゆく夕日、夜空の星々やお月様：全ての自然を徐々に心で感じられるようになってきました。

また、絵本がきっかけで一緒に学んでいたお母さん仲間とボランティア団体を立ち上げ、手作り人形劇を作つて保育園・幼稚園や小学校で講演してまわるようになりました。台本も人形も道具も背景も音響も全て手作りなので一完成するまでに多くの時間と労力が必要になります。昨今、桃太郎や浦島太郎等日本のお話やTVCMでパロディー化されてしまい、日本

古来から伝わる本当の昔話を知らずにCMのそれを本当の話と思つて育つ子ども達が出てきています。このままではまずいと危機感を覚えます。昔話は生きる力や知恵、人としての在り方等、先人達が沢山のことを教えてくれているのです。私達はこの大切な文化を後世に伝えていきたい、映像ではなく、生の息づかいで子ども達に伝えていきたいという思いで取り組んでいます。子ども達がキラキラとした目で吸い込まれるように嬉しく、やめられない原因の一つです。

人形劇と同時にストーリーテリングも学び始めました。絵本も何もなく語り手からお話を聞きながらその話を想像するので。それは単にお話を暗記してはき出すのではなく、聞き手にそのお話を分かんやすく想像しやすいようにりやすく想像しやすいように届けなければなりません。語り手は黒子でお話が主役です。奥が深い世界でとても難しいのですが、子ども達がお話に入り込んでいく様子や緊迫感や一喜一憂している表情を見

るとやってみるとよかったと感じます。近年、スマホやゲームがあたり前になってきている子ども達に否応なく幼い頃から一方的に映像が目に入ってきているのです。「聞く」「想像する」ことの大切さを、またお話の楽しさを素晴らしさをこれからお話を届けることで子ども達に伝えていきたいと思つています。

今、私は赤ちゃんから幼児・小学生・中学生そして大人まで、読み聞かせや人形劇やストーリーテリングをさせて頂くことを通して沢山の人の出会いや学びをいただいています。ボランティア活動ではありませんが、私の方が沢山ののをいただき「感謝」「幸せ」の日々を送らせて頂いています。それは、振り返つて考えてみると感謝の心を教えて頂いた梅光での学びが今の私の根底にあるような気がします。最後にこのような活動を一緒にして下さるメンバーを募集しています。ご興味のある方は是非ご一報いただけると幸いです。



人形劇



小学校でのストーリーテリング



中学校での読み聞かせ



コール梅光報告

田村優子先生のこと

梶 間 眞壽美 (高7)

コール梅光発足以来、16年間、伴奏者として指導して下さった田村優子先生(高27音・旧姓眞野)は、2017年夏、体調不良で受診「膵臓がん」の診断をうけ10月に手術、治療に専念されました。2018年5月に3度目の手術を終え退院、快方にむかわれたようでしたが、その後、病状が悪化し入退院を繰返され2019年1月12日に逝去されました。享年62。闘病生活に入られて長女の初音さん(高61音)が伴奏を代行して下さいました。優子先生の闘病の様子を初音さんは次のようになら記されています。『……病気になるってからも絶対に母は最

後まで諦めなかったし、音楽にも前向きで、感謝を忘れませんでした。コール梅光の皆さんにたくさんの励ましを受けて「先生、待ってるよ」って皆さんが言って下さっているのを私はいつも伝えておりました。「もうずっとピアノは弾いてないから伴奏は難しいけれど戻れたらアルトに入りたいなあ」といつかだったので、今もきくと皆さんと一緒に歌っているのかなあと

思います……』と。優子先生はピアノのレッスンや合唱団の指導など幅広い音楽活動をされていきました。山口県国民文化祭で歌われた「るり色のメッセージ」の作曲や「いにしえのまち」の編曲を手がけられました。2017年に下関市文化奨励賞を受賞されました。◎2018年(平成30年)度



田村優子先生

報告

田村先生は病床にあつてもコール梅光のことを気遣って下さり、行事へのアドバイスをいただきました。

1月18日コール梅光総会(山田記念ホール)、5月12日同窓会総会参加、7月4日メモリアルデイ参加(宙そらのホール)、9月30日木暮実千代生誕百年記念市民劇「オトン」協力出演、11月11日リンデの会、12月7日「クリスマスマス礼拝&チャリティコンサート」を行いました。

◎練習会場のこと

2003年コール梅光発足の時、峠口新院長の許可を得てスタージェスホールを中心とした学院の施設で練習してききましたが、新館工事開始のため3月に樋口紀子院長から施設の使用禁止、以後も部外

者貸出は考えないと言われ、それ以来下関市生涯学習プラザを使用することになりました。スタージェスホールには2004年に同窓会が学院に寄贈したスタインウェイピアノがあります。機種選定にあたって中山敦先生や田村優子先生がご尽力下さり、「コール梅光」はこのピアノをお借りして毎週木曜日の練習や「クリスマスマス礼拝」と「チャリティコンサート」行ってまいりました。

◎2019年(平成31年)度活動計画

田村優子先生の1月15日の葬儀で新年度が始まりました。「今日の日はさようなら」「主よみもとに近づかん」……と先生を天におくり、後継者として田村初音さんを伴奏者におむかえしました。

1月17日コール梅光総会、5月11日同窓会総会参加、7月4日第19回メモリアルデイ参加、12月7日「クリスマスマス礼拝とチャリティコンサート」、会場は下関市民会館中ホールです。詳細は未定ですが10月中旬生涯学習プラザ文

化祭に参加する予定です。会員の親睦旅行も企画中です。今年には田村先生の追悼の年です。先生の美しくやさしいメロディーの「るり色のメッセージ」と「いにしえのまち」を練習しています。先生も一緒に歌っていて下さると思います。

おわりに 本年度の会員は41名です。もっと多くの方々と歌いたいと思います。日本、世界の名曲、なつかしい歌、讃美歌、ハレルヤコーラスを同期生、先輩、後輩たちと楽しく歌いましょう。

コール梅光
指揮者 澄川孝子(高23)
伴奏者 田村初音(高61音)
練習日 毎週木曜日(13時30分~15時30分)
練習会場 生涯学習プラザ
会費 月額3000円
参加申込
同窓会室
083・227・1111
080・5622・9425
(豊永)
080・6336・1288
(横田)



第34回ソフトボール部OG会報告

幹事 上野 みち子 (高24)

10月6日(土) 11時から：
天気予報では下関地区は台風接近でした。

でも大した風も吹かずソフト部OG会は、顧問の先生方をお迎えして無事開催しました。場所は何時もの同窓会和室ではなく、シーモールのサイゼリアのパーティー室でした。大学の新校舎建築で駐車場の確保が出来ないための変更でした。

台風を心配されて2、3名の欠席はありましたが、例年通り楽しい会が催されました。

前回に続きヒーリング楽器の「タオライザ」を持参された方もいて、その音色や響きを体験しました。

食事をしながらの自己紹介では、梶間先生は相変わらず早朝テニスに励んでいることや、片山先生は漬物がとても

お上手でおいしいとのこと、そして他の皆さんの近況等も伺うことが出来、皆さんの頑張っている様子にお互いが発奮できるようでした。

その後はお楽しみタイムのゲームです。趣向を凝らしてなかなか楽しいゲームでした。皆が年を忘れ楽しいひとときを過ごせました。

ソフト部OGの方、来年は参加しませんか？10月の第1



週の土曜日、11時からです。予算の都合で皆様方にご案内の葉書を出すことができません。

ご希望の方は幹事さんに一報お願いします。

次回幹事

高28 海老沢 真弓
083-252-7094

支部だより

東京支部

平成最後の東京支部同窓会の報告を致します。

平成三十年五月二十二日(火曜日)・京王プラザホテルで開催されました。

当日はお天気も良く、同窓生七十名の方々が参加してくださいました。

例年通り礼拝そして総会の後、イベントが行われました。

江原千花さん(高六十六音)が、自主制作で梅光の東館を題材にした記録動画と大先輩・木暮実千代さんの過去の講演



で話された文を、しっかりと情感を込めて朗読して下さいました。

また受付では、歴史を重ね、卒業生の想い出が詰まった梅光の制服が変わるにあたり、多くの方々が悲しく思い、記念に残したいとの思いで後輩が制作された「梅光学院制服の写真集二〇一七」の販売も致しました。

同窓会は長くはない時間で

したが、参加された同窓生は、少しは御満足していただけたのではないかと思います。

本年は開催するための当番学年がいなかったため、支部の委員やいつもお手伝いして下さる同窓生によって準備いたしました。来年度は当番学年の方々がおられ、現在準備中ですので参加してみたいと思われ方がおられましたら、ぜひ東京支部のホームページを見ていただきまして、ご連絡下さいませ。

お待ちしております。
(高21・望月久美子)

北九州支部昼食会

2018年度の北九州支部会は7月21日(土)プレミアムホテル門司港で開催。会は力丸徳子さん(高8回)の敬虔なお祈りで始まりました。樋口学院長は公務の為御欠席だったので、片山宣子同窓会会長を通して、学院の様子をお伺いし、同窓会の現状、問題点等をお聞きしました。会場は幹事の高16回生が、出席者の人数に応じてテーブルを大きな



権 力丸徳子さん (高8)

円形にするなど全員のお顔が見えるよう工夫して下さい、お料理も皆様に喜んでいただけるようにと交渉して頂いています。御蔭で初めての方も自分の実家に帰ったように和やかなで個人的な近況報告をされ、母校や同窓会に対しても建設的な意見を述べ、校歌を歌う頃には、全員青春時代の梅光生に戻り、次回の再

会を楽しみに散会しています。

この支部会の立ち上げの時から、深い祈りで支えて下さいました力丸徳子様が2018年12月26日に召天されました。葬儀は「偲ぶ会」として12月29日に北九州市シオン教会で執り行われました。式は弟様の力丸嗣夫牧師の司式と義妹の力丸勝子さんの奏楽で始まり、ご遺族、ご親族の皆様はもちろん、教会員、梅光の同窓生、社会福祉や音楽活動の関係者、交友のあった方々等で広い礼拝堂は埋め尽され、参列者の皆さんは思い出や感謝を言葉やコーラス、ギター、オルガン演奏で偲ばれました。力丸徳子様を愛し、人を愛し、

殊に虐待を受けた幼子に優しい眼差しを注がれたご生涯には、天皇陛下から「瑞寶単光章」(平成20年11月3日)を授与されています。

私的な面でも絵画、音楽、文芸に豊かな感性をお持ちで、ご自宅は趣味の域を超えた美術館のようでしたし、毎年北九州聖楽研究会の発表会ではソプラノ部門で神を賛美され、著書「『愛してほしい』施設で暮らすこどもたち」での秀でた文章力や描写力には一般の読者も感銘を受けています。

今年度の支部会のご案内をいたします。

日時 2019年7月24日(水) 12:00~14:00

会場 プレミアムホテル門司港(旧門司港ホテル)

会費 4000円

申し込 TEL&FAX 093-5111-5630

Email mtmoria@rapid.ocn.ne.jp

〒802-0032

北九州市小倉北区赤坂3-10-65 森田 朋子

締切 7月16日

(北九州市以外の方もどうぞお誘い合わせの上ご出席下さい)
幹事 岩田範子・小野 睦・遠山博野



集合写真

北九州支部からは生花を贈らせていただきました。(高11 森田朋子)

長崎支部報告

長崎支部長 森田美智子

同窓会の「長崎支部立ち上げ」のお話を頂いてから、早くも2年以上が過ぎました。一昨年の春、38年勤め上げた教職に一段落つけた頃、片山会長様からのご依頼で、長崎支部の立ち上げを進めさせて頂きました。改めて「今の自分があるのは梅光で学んだお陰だ」と思えるような年齢になったのだと実感します。

しかし、支部の立ち上げはそうそう簡単ではありませんでした。当初、会長様から頂いた長崎県内の卒業生の方は、そんなに多くは無いらうと考えていましたが、データをみてびっくり。なんと、250名もおられたのです。長崎は梅光の出発点だとは知っていましたが、こんなにたくさん先輩方がいらっしやっただなんて。感動しました。

さて、これをいかに組織化して、意味のある同窓会にするべきか?考えました。

自分一人では何も出来ませんから、知り合いに同志を募り、役員になってもらいました。

そして、梅光を離れて何十年も経つのに、「今更同窓会なんて、何の意味があるのか?」と思われる方もあると予想し、同窓会の存続の意義についても役員と話し合いました。結果、今の自分たちにとっても、学院にとってもプラスになる活動ができれば、と考えました。初めは250名全員にお葉書を出して、同窓会立ち上げに前向きか、否定的かをアンケートを取りました。頂いたご意見を集約し、最終的に前向きにとらえてくださった方に、会員になって頂くよう進めました。

その後、第1回長崎支部総会を昨年5月に開催いたしました。秋には研修会と称して、世界遺産に登録された、「外海の教会群」や、近くの「遠藤周作記念館」を訪れたりしました。会員同士の絆は回を追うごとに深まっていくと信じ



第1回支部総会



海外教会群研修旅行

ます。今後は会員全員の総会参加をめざし、会員相互の顔の見える同窓会にしたいと考えています。長崎県は、離島を含め、地理的な条件が非常に厳しく、会員の皆様が参加しにくい環境にあります。それでも、細々と「光の子」としての絆を深めて行くべく、

頑張っています。今後とも本部のご支援を宜しくお願いいたします。

下関支部発足のご報告

昨年の年明けに、同級生の西川さんからお電話があり、大事な集まりに出掛けることになりました。それは、高33と34の卒業生が中心となり、梅光の発展を願うと共に、卒業生同志の繋がりをどう紡いでいったらよいかという真剣な話し合いの場でした。

ここでは、梅光同窓会の中でも、すでに活発に活動しておられる東京支部や北九州支部のように、「下関支部」を立ち上げることの必要性を皆が感じていました。そして「具体的な活動」を通して、下関近郊の同窓生が楽しく繋がりをもち、互いのキャリアや能力・個性を活かしながら同窓会を盛り上げ、学校を支えていこうということになったのです。

その時までの私は、暫く下関を離れていた時期もあつたが、恥ずかしながら、日々の



仕事と子育てに追われ、そこまでの考えが及んでおりませんでした。しかし、同窓生と沢山のお話しを重ねる中で、メンバーの、梅光のことを思い、先輩方を敬愛し、現役生も含めて後輩のことを慈しむ、その想いに圧倒されました。また、下関支部立ち上げに關しては、ずっと以前より、梶間先生をはじめ同窓生の方々の構想や想いがあつた事を後に伺いました。その想いが重なり合つてこそ、満を持して昨年結実したのだと思います。

さて、支部活動は、手探りしながらではありますが、次のような内容で行われました。

- ① 四月八日 シーモールパルスにて発足会
- ② 五月十二日 同窓会総会出席
- ③ 十月十三日 日和山の竹あかりイベントに参加
- ④ 十二月二十四日 田中絹代記念館にて、支部クリスマス会
- ⑤ 令和元年五月十一日 同窓会総会出席
- ⑥ 同六月二日 糸島バス旅行(計画中)

発足会では、初年度は会費などはつきり規定せず、まずは活動の様子を見て頂き、できるだけ多くの皆様に、行事に参加して頂きながら親睦を深め、アンケートをとり、楽しい会を創っていきましょうというスタンスで始めました。ゼロスタートでしたので、募金箱を設置しましたところ、皆様が快く応じて下さり、応援の気持ちの温かさを感じました。

又、準備の段階では、発足会の案内文を考える人、デザインや印刷をかってでてくれる人、会計や名簿の整理をしてくれる人、当日の飾りつけやプログラムを考える人、お店と交渉し、司会進行を務める人など、それぞれが神様から与えられたタラントを活かし、水を汲む僕となってそれぞれの持ち場で活躍してくれました。

この時の特筆すべき素敵なことは、高34西原由実(松琴堂)さんが、梅光をイメージした和菓子をお土産に用意して下さったことです。梅光の上品ですがすがしい夏服をお菓子にして下さいました。梅光同窓生ならではのセンスに皆さん感激していました。

「日和山の竹あかり」では、有名な「ちかけん」さんの指導の下、岩元さん、井川さんを中心に竹あかりの製作の準備から携わったメンバーもおります。当日はお席とお弁当を準備して先輩方と幻想的な竹あかりの中で、琵琶の演奏や、卒業生の江原千花さんの舞踊などを堪能いたしました。懐かしい先生や大阪や遠方より駆けつけられた同窓生との再会もあり、楽しい夜でした。

支部クリスマス会では、美しい田中絹代記念館をお借りでき、水津さんの赤を基調とした温かい演出のお部屋で、礼拝・キャロル、自己紹介や



ケーキタイムそしてハレルヤコーラスと、世の中のクリスマス会とは一味違う素晴らしい時を過ごし、この年を締め括りました。

令和の六月には、福岡県糸島の観光分野で活躍している桑野さんの企画で、バスツアーが行われる予定です。なんとバスの運営も卒業生が関わって下さっており、社会で活躍している同窓生の姿に触れ、誇りに思います。

又私が感謝だったのは、支部発足を通じて「コール梅光」などの諸先輩方とお交わりできるようになったことです。梅光生一代目の自分は、恩師以外の先輩を存じ上げていなかったのですが、この活動を通じて梅光ファミリーになった実感が致します。

下関支部のメンバーは現在までの行事参加実績で八十余名となっております。多くのご参加本場に有難うございました。スタートしたばかりです。まだまだ支部の事を知らない同窓生も多くいらっしゃると思います。どうぞお声を掛け合って頂き、盛会にしていけるよう、そして新たな

梅光の卒業生にも参加して頂けるようにと願っています。

私達は、学院時代に、クリスマスや花の日、収穫感謝の日などを通じて、神と他者へ想いを寄せ、奉仕する事を教えて頂きました。ですので、卒業し社会に出て、生かされている今こそ受けた教育の精神をお返ししていく時ではないかと思えます。昭和・平成から令和へ、時代は変わって

第3回海峽会開催のお知らせ

●海峽会って？

社会という大海原で時代の激流にもまれる中、年に1度、梅光という灯台を頼りに「交友と出会える空間」があったら。そんな想いで、20代の同窓生9名が発起人となり創られた場が海峽会です。会を立ち上げた2年前はちょうど学院改革真っただ中。陸では孤独を感じても、海峽に足を運べば、ひと繋がり的大海です。ふるさとに帰る魚のごとく、下関に立ち寄られてみませんか。今年度も樋口学院長・片山同窓会長をはじめ、多くの教職

も梅光スピリッツを受け継ぎ、新しい時代と調和させたいと思えます。

至らない点多々あると思えますが、ご意見と共に、祈りと愛をもって応援して頂ければ幸いです。

「愛は結びの帯として完全です」

(コロサイ3:14)
(高33) 大上純子

員・同窓生の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

●2019年10月19日(土) 15時~17時(14時半より受付)

下関駅から徒歩5分、シーモールパレス(入口2F)、エメラルドの間にて歓談のひとときを持ちます。参加費4,000円(ソフトドリンク付)。お車でお越しの方にはシーモール駐車場3時間無料券を



同窓会ホームページはこちら

発行いたします(隣接の映画館駐車場は適用外です。ご注意ください)。参加締切は10月7日(月)。同封の払込取扱票による申込か、お名前とご住所・電話番号を記載の上、末尾記載の同窓会メールアドレスまでご連絡ください(その場合当日受付にて参加費支払となります)。10月16日(水)以降のキャンセルはご返金できませんので、ご了承ください。

●当日プログラムの詳細

前回のアンケート結果をいかし、冒頭のご挨拶を簡潔にし、立食形式による自由歓談の時間を多くとする予定です。歓談中も、先生方からお一言を賜ったり、近年社会人となった同窓生による近況報告、ギター演奏や歌など、様々な催し物を企画しております。100名~300名のご参加を目指し、実行委員一同取り組んで参ります。進捗状況のご報告を同窓会ホームページに掲載いた



第2回海峽会の様子



しますので、ご確認ください。
第3回海峽会代表 大英44
(2014年)卒 柴田稔
同窓会メールアドレス
(jimukyoku@baikou-

dousoukaipj)
●参加を迷われている方へ
・10月は厚労省指定「年次有給
休暇取得促進期間」です。休

●参加を迷われている方へ
・10月は厚労省指定「年次有給
休暇取得促進期間」です。休

・立食形式かつ学部別の名札
あり。お一人での参加でも
楽しめます！

・20代の方は当日受付にて1、
000円返金。つまり実質参
加費3,000円！

もう！

・本誌同封の払込票による郵
便局ATMでの参加申込が
可能。らくちん！

特別寄稿

我が母 マサコ・ムトー

ヒロコ・ムトー(作家)

遠い昔(昭和5年)、梅光女
学院を卒業し、88歳から豆紙
人形作家として世に出たマサ
コ・ムトーを皆さまはご存じ
でしょうか?大正2年、門司
で生まれた母は4歳から下関
市に移り住み、「山の上のお城」
と呼ばれていた憧れの梅光女
学院の生徒となり、光り輝く
少女時代を過ごしました。昭
和初期ながら外国人宣教師に

よる英語教育が盛んで、欧米
の自由な風とキリスト教の精
神で生徒を育んだ梅光の教え
が、その後、幾多の荒波に揉
まれ、苦難の人生を過ごした
母を一生支えてくれました。
お転婆で自由奔放な少女だっ
た母は、実は問題児でした。
毎回、奇想天外な校則違反を
次々と繰り返し、その度に祖
母が「お詫びのお饅頭」を持っ
て職員室に頭を下げに通って
いました。そんな思い出を楽
しそうに語ってくれた晩年の
母の幸福そうな顔を私は忘れ
られません。当時、日本の女
性は自分の人生を自分で決め
ることが出来ない時代でした。
母の胸に抱いていた夢や希望

は当然叶わず、卒業後、三年
半の家事見習いから帰った母
を待っていたのは、顔も分か
らない豆粒写真の男性との結
婚でした。相手は京大卒のエ
リート鍼山技師、家柄格式と
身分違いの家に嫁いだ母は、
「物言えぬ嫁」としてじっと
耐えに耐えた半世紀を生きて
きました。母が自分の時間を
手に入れたのは父を見送った
70歳からでした。一年前に緑
内障で右目を失明し、残る片
目も白内障でほんやり。戦時
中の怪我で片足は曲がらない
不自由な体で、母は少女の頃
の夢「表現する自由」を求め
てパステル画を習い始めまし
た。そして8年後、描きため
た絵で個展を開き、「人生遅す
ぎることはない」と、同じ世
代の人に生きる励みを与えた
として大評判を頂きました。
報われたかと思えた母を次に
待っていた試練は過酷なもの
でした。ほんやりでも見える
左目の失明の危機、全身を襲
う病魔は肺、心臓、腎臓、肝
臓、大腸癌と絶え間なく、一
年の半分は手術と入院の繰
り返し。でも、奇跡は起きた
のです。母の片目は人口水晶

体として蘇りました。その目
で母は二度目の個展を開きま
した。「もう一度、おばあちゃ
んの個展を!」「もう一度、あ
なたのパワーをください」そ
の後も止まぬ人々の声に応え
ようと老いた母は考えました。
甦った目も視力が落ち、もう
大きな絵を描ける体力もない。
でも、何かあるはず。今の私
が出来た何か!そう思った
母は、指先の感覚だけで作れ
る、手のひらに乗るような小
さな豆紙人形を作り始めまし
た。忘れ去られようとしてい
る大正・昭和の日本の昔の風
景を、四季折々の懐かしい行
事を僅か3.4cmの世界に再
現し、ひと夏で77点を制作し
た母は、88歳の秋、「豆紙人形
展」を開催しました。人生と
は不思議なものです。最後の
つもりの個展で母は豆紙人形
作家として世の中に認められ、
新しい人生が開きました。母
の作品は海を渡り、中米仏の
海外展で大きな称賛を頂きま
した。93歳で亡くなるまでの
5年間、母は300点余りの作品
を制作しました。「夢は叶うも
の 叶うものと思いい続けるも
の」「やろうと思いいさえすれば

何時からだって 何だって
できる」「どんな時でも 諦め
てはいけない どんな時でも
何かできることはある」辛
い時もめげることなく、明る
い笑顔で乗り越えてきた母の
一生、「人生いつでも花開く」
を本に綴りました。
人は88歳からでも輝ける!
70歳まで普通の主婦だった母
が体中にハンディを背負いな
がら切り開いてきた生き方は、
壁にぶち当たり自信を失った
時、道に迷った時、きつと夢
と希望と可能性をお届けでき
ると信じています。母の愛す
る梅光女学院の後輩の皆さま
には、ぜひ、読んで頂きたい
と願っております。



武藤マサコさんとヒロコさん



総会報告

朝夕の気温差と数日続いた曇り空が一転、朝から熱いぐらしいの日差しの中、令和元年五月十一日(土)午前十時三十分より「梅光学院同窓会総会」がシーモールパレス「ダイヤモンドの間」で開催されました。残念ながら、今年度は学院側からのご出席が叶いませんでしたが、約百五十名の同窓生が会場にお集まりくださいました。

奏楽が流れ、心穏やかにチャペルチャントを歌います。礼拝の聖書の箇所はフィリピの信徒への手紙四章四節から九節。クリスマスチャンではない同窓生にとっては、学生時代を想起し、現在の自分と向き合うささやかなひと時を過ごします。

昨年度の行事報告や、会計報告の前に、同窓会長の片山宣子さんが会長挨拶をされました。「今年度は元号が変わった初めての同窓会」ということもあり、「令和」という元号に使われた漢字の意味や、その言葉に込められた思い等を学院で長く国語の教員をされ

てこられた先生らしい分かりやすい解説と、ここ数年の同窓会と学院の関係について今後の希望をお話しされました。

その後の事務局報告において、昨年度作成した同窓会名簿の在庫があること、他県等で支部立ち上げの際は無償で提供することをご説明されました。

また、卒業生の木暮実千代さんを顕彰する有志の会「木暮の会」があり、その会で創作劇の「オトン」が盛況であったこと、木暮実千代さんは近代顕彰会の中に入るべき人だと考えるので、この事について



りを、明るく頑張り通せたのは、若いころに梅光で過ごした教育の賜物であり、梅光の教育の強みではないでしょうか。同窓会はこうした梅光の教育を市民の方や同窓生に確認してもらおうアピールをこれからも続けていきたいと熱く語られました。

議事報告の最後は、東京支部、北九州支部、長崎支部、下関支部の各支部長さんがご登壇され、支部活動の報告をされました。北九州支部の立ち上げから関わってこられた力丸徳子さんが昨年末に天国に召されたことをとても寂しく思います。ご冥福を心よりお祈りいたします。下関支部では、六月二日に行われるバス旅行のご案内がありました。議長選出は、立候補される方が挙手して決定しました。

2019年度提議①大学新館「クロスライト」完成記念品寄附及び新提案の件、②理事会に同窓会推薦の評議員を選出参加する件、③同窓会誌発行等に関する件の3件について審議されました。

提議①について、昨年度の同窓会総会にて可決された

300万円を上限とする記念品の申入れを学院に打診しましたが、現在は特に必要なものはないとの回答を受けたということでした。現在同窓会としては、竣工式にお花とご祝儀をしたのみで記念品を贈呈できていない、今年の6月から旧校舎の解体工事が始まり、緑化して公園化するという事なので、今年度も300万円を上限として記念品を贈りたいことを申し出たということご提案でした。厳しいご意見の質疑がある中、会長から、「例え学院が同窓会からの記念品を望まないとして



では同窓会として下関市へお願いすること、併せて北九州市門司港駅の一角に昭和五年ご卒業の「マサコ・ムトー」さんの製作した紙人形が展示されることになっているので、今後下関市においても、マサコ・ムトーさんを取りあげていってもらうことをすすめたいというご報告をされました。

マサコムトーさんの娘さんが、お母様の梅光時代のお話を「人生いつでも花開く」という本に書かれたそうです。梅光の卒業アルバムと聖書をいつも大切にされていて、ご高齢になって始めた紙人形作



も、同窓会は学院に寄り添い援助をしていく立場からお祝いをしていきたい」と意見を述べられました。決議は、賛成、反対、保留の3択から行われ、賛成が半数を超えなかった為、否決されました。

提議②について、学院の理事会には、十一名の理事と評議員から成り立っているが、同窓会推薦の評議員は一人もいない、同窓会長を理事に入れる事も既に二度否決されている。理事会の規約では、評議員の中から理事を選任する事があるので、評議員に入らない事には理事にはなれない現



状だご説明されました。同窓会から推薦した評議員を選出することを学院に申し入れたい。その為同窓会総会での可決、支部や有志からの働きかけが必要だということでした。決議は圧倒的多数で可決されました。

提議③について、毎年5月に行われる同窓会は、子どもを持つ同窓生にとって学校行事と重なり出席が難しいこともあり、来年度開催は六月二十日の土曜日に行われることが可決されました。同窓会誌と同封される総会への参加費の振込手数料は、今年四月

月からの手数料値上げを受け、来年度から送付者の負担になりました。

熱い審議が繰り返され、当初予定した時間をすぎ総会は閉会しました。

予定開始時刻を二十分過ぎ懇親会が始まりました。当番幹事の吉田留津子さんが食事の感謝の祈りをしました。総会で高ぶった気持ちが落ち着き楽しい食事の時間を持つことができました。皆様がお食事をされている間、懐かしい先生方へ、簡単なインタビューをして歩きました。中で教壇に立たれた数学の河



田修先生は、遠い佐世保からおこしくございました。次に、ミュージカル部OGによる「天使にラブソングをII」梅光OGオリジナル版のパフォーマンスが行われました。この日の為にOGの方々が何度も練習場所を借りて練習を重ねてくださいました。懐かしいセーラー服での歌やダンス、そして最後に登場した新制服のお嬢さんたち、OGの方々が話し、制服が変わっても私たちは梅光の卒業生であること、卒業生として、現在も在校生と学院を応援していることをメッセージとして伝えてくださいました。ご参加くださった皆様は歌やダンスに釘付けで最後は拍手喝采。素敵なパフォーマンスを拝見することができました。

「ハレルヤコーラス」を登壇させていただいた当番幹事とコール梅光の皆様、会場にお集まりの皆様と笑顔で大合唱し、大変楽しい懇親会を終了することができました。

今年も地元の卒業生が大型連休の関係もあり、集まりにくい中、昨年、一昨年、来年度の幹事の方がご尽力くださり、なんとか会を終了できました。至らぬことも多々あったと思いますが、この反省を来年度に生かすことができるよう、来年度の幹事さんのお手伝いをして、皆様から受けた御恩をお返ししていければ、幸いだと思います。また皆様と来年もお会いしたいと思います。本当にありがとうございます。

当番幹事 (高42 短日26)
今道 裕美





* 2018年度(平成30年度)行事報告*

2018年

- 4月8日 下関支部発足会 [シーモールパレス]
15:00~16:30 64名参加
- 4月21日 役員会
- 5月1日 会計監査 梅尾澄枝
- 5月12日 同窓会総会 [シーモールパレス]
10:30~15:00
(1)総会・礼拝・講演・審議・会長選挙
(2年間)・中学合唱部特別参加
(2)懇親会 コール梅光コーラス、軽食・懇談
- 5月15日 同窓会員名簿 発行(編集・出版 株式会社
サラト)
- 5月19日 役員会
- 5月22日 東京支部総会 [京王プラザホテル]
(樋口院長、片山、磯谷出席)
- 5月26日 第1回長崎支部総会 [ホテル サンプリエー
ル] (磯谷出席)
- 6月16日 役員会
- 6月26日 梅光誌50号発行
- 7月4日 第18回梅光メモリアルデー
14:30~15:30
[宙のホール] 約70名
(1)礼拝と賛美
・講話 平良美代(高5)
(2)コール梅光 合唱
- 7月21日 役員会
- 7月21日 北九州支部会昼食会 [プレミ
アホテル門司港]
(片山、磯谷、浜谷 出席)
- 8月25日 役員会
- 9月15日 役員会
- 9月30日 木暮の会 市民劇「オトン」
[海のホール]
- 10月13日 下関支部「日和山の竹あか
り」30名参加事務局より手伝
い5名
- 10月20日 役員会
- 11月17日 役員会
- 11月30日 80歳(高8)以上の方へクリ
スマスカード発送 1,129通
(内、海外5通)
- 12月7日 コール梅光クリスマス礼拝・
チャリティーコンサート [宙
のホール]
- 12月15日 役員会
- 12月24日 下関支部クリスマス会 [下関
市立近代先人顕彰館] 30名

2019年

- 1月18日 大学卒業新入会員同窓会入会式(卒業準備会
の時)
11:10~12:00 約240名
(片山、磯谷、畠中、岩男 出席)
- 2月16日 役員会
- 3月9日 大学・大学院学位授与式 13:30~ (片山、磯
谷 出席)
卒業・入会記念品(ふろしき)
- 3月14日 高校卒業新入会員同窓会入会式11:45~12:15
山田記念ホール 78名
卒業・入会記念品(ふろしき、制服写真集)
(片山、磯谷、畠中、岩男 出席)
- 3月16日 役員会
- 3月16日 中学高校合同卒業礼拝(片山、磯谷 出席)
- 3月26日 大学新校舎 竣工式・内覧会(片山、磯谷 内
覧会出席)

平成30(2018)年度会計報告

科 目	30年度予算	30年度決算	差 異
取 入 の 部			
終身会費取崩し	10,453,000	6,232,396	-4,220,604
繰入収入	654,000	616,000	-38,000
入会費	525,000	547,500	22,500
總會懇親会会費	188,000	170,083	-17,917
受取利息	20,000	2,000	-18,000
施設利用料	3,000,000	1,480,000	-1,520,000
運営費収入	100,000	158,918	58,918
雑収入			
取 入 計	14,940,000	9,206,897	-5,733,103
支 出 の 部			
事務費	600,000	391,655	-208,345
事務手当費	1,600,000	1,585,530	-14,470
旅費	200,000	129,900	-70,100
通信費	2,000,000	1,567,529	-432,471
印刷費	6,500,000	2,066,151	-4,433,849
行事・集会費	700,000	1,372,648	672,648
交際慶弔費	200,000	252,832	52,832
雑費	70,000	38,520	-31,480
光熱水費	70,000	50,210	-19,790
教育支援寄附金	3,000,000	0	-3,000,000
支部支援金	0	200,000	200,000
グッズ製作費		900,222	900,222
卒業記念品代	0	651,700	651,700
支 出 計	14,940,000	9,206,897	-7,485,025

貸借対照表

		平成31年3月31日	
現 金	238,774	終 身 会 費	85,266,183
預 金	90,923,943	終 身 会 費 引 当 積 立 金	5,812,534
		預 金	84,000
	91,162,717		91,162,717

上記平成30年度決算及び貸借対照表の会計報告に関して帳簿・証憑書類等を監査致しました。記載事項は事実に基づいており適正であることを認めます。

同窓会監査人 梅尾澄枝



新入会員あいさつ

永野 未来

英語コミュニケーション専攻卒業

この度新しく梅光学院大学同窓会に入会いたしました、文学部人文学科英語コミュニケーション専攻卒業の永野未来です。

私は梅光学院大学に入学して様々なことを経験させていただきました。そのどれもが私自身の力となりました。夢のためにひたすら努力したこ

と、勉強とアルバイトと部活動の両立に苦しんだこと、次々に出会う人たちとたくさんのお出逢い、築けたこと。どれも欠かすことのできない大切な出来事だと思います。

特に親身になってご指導してくださいました先生方との出会い、楽しい時もつらい時も共に支えあった仲間との出会いはこの先の人生においても大事になると思います。自分一人ではここまで充実した4年間は無かったと思いません。だからこそ卒業して離れ

離れになったとしても、互いに思いあつて連絡を取りながら、時には顔を合わせ話をしていくのだからと思います。何かうれしいことがあれば、何か辛いことがあれば励ましあえるような関係であり続けたいです。

また梅光学院の同窓会に入会させていただくにあたり、これまで数々の先輩方が築かれた輝かしい歴史の名に恥じないような人生を送っていきたいと思います。

光の子として同じ道を歩まれた先輩方なので、私たちが何か困ったときには支えていただけると信じています。私たちも光の子として後輩たちに少しでも還元できるように行いをしていきたいと思えます。これから長い付き合いになりますと思われませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

2018年度 運営費寄付者名

単位千円 2017.4.1~2018.3.31までの受付

ご支援を感謝します。 旧職 (故)安森敏隆 夫人 安森淑子様 10 梅24 (故)中村豊栄(野口) 遺族 吉田洋子様 13 高15 (故)大津恭子(松下) 2000 ご本人のご遺志により

Table with 4 columns: Grade, Name, Amount, and another Name/Amount column. Includes entries like 高9 横山佐治子(藤本) 3, 高5 重中美蓉子(重中) 3, etc.

Table with 2 columns: Name and Amount. Includes entries like 旧職 河田 修 3, 旧職 竹内正代 6, etc.



大10日	若山邦美(榎)	3	短英10高25	永井妙子(今永)	3	高35音	大塚真理子(榎田)	10	高13	対馬恵美子(福原)	3
大10日高28	松浦孝子(香月)	10	短英10高25	百田純子(江本)	3	高37	篠原素子	3	高13	続木千加代(船津)	3
大10日高28	海老沢真弓(後藤)	3	短英12	松本恵子(岡村)	3	高37音旧職	三吉美樹(富永)	3	高13	石川尚子(宮崎)	3
大10英	井上容子	10	短日13	田中恵美子(田中)	3	高38	稲岡昭子(黒瀬)	3	高14	川崎照代(熊本)	3
大11英高29 旧職	龍崎美香(龍崎)	10	短英14高29 旧職	宮内文恵(隈井)	3	高40	山中弘子(安部)	3	高14	西田和子(佐々木)	3
大12英高30	河合津奈恵(河合)	3	短英14	岩下康子(吉田)	3	高41	桜井敬子	3	高14	白須美砂子	10
大12英短英15	林田恭子	3	短日15高31	谷田ゆかり(長岡)	3	高41	松永由美子	3	高14	尾崎貞子(中村)	3
大13日	三浦美香子(武石)	3	短英16	長瀬比呂代(中野)	3	高42音	許 伯恵(許)	3	高14	岡崎郁子(西川)	3
大13日	宮田史子(原)	3	短日16高32	山口伸子(堅田)	3	高43	植田みどり(梶間)	6	高14	渡辺千恵子(西沢)	3
大14日	諫山貴子(青柳)	3	短日16	樽本久美(藤原)	3	高47英	東屋悠子	3	高14	宮郷政代(野村)	3
大14日	紺屋はるみ(徳永)	9	短日16	磯村礼子(三好)	3	高50音	木下綾子(浜野)	9	高15	山口美紗子(今村)	3
大14英高32	和田知子(上野)	3	短英17	福田典子(杉)	3	高57	松本由希	3	高15	田中洋子(岩崎)	3
大15日	中嶋まどか(二田水)	3	短英18	石川淳子(長友)	3	高67	植杉美紅	3	高15	中田早百合(原田)	3
大15英	田中文代(寺田)	3	短英18	溝口真美(新原)	3		石川美里	3	高15	浴本泰子(藤山)	3
大16日	梶原理佳子(大久保)	3	短英20	井上悦子	3	高70	小石玲華	3	高16	小林素子(市河)	3
大16日高34	野見山百葉(末松)	3	短英21	石渡久美子(田中)	3	高70音	渡邊奈瑠	3	高17	田中展子(石田)	3
大16日旧職	植月明美(山下)	3	短日21	浅野千加子	3	短英1高16 旧職	野村佐登美(郷)	6	高17	中村睦美(喜多)	3
大16日	小川滋子(山本)	3	短日24	宮下ひろみ	3	短英1高16 旧職	阪本和子	3	高17	斉藤静江(寺下)	3
大16日	土河美枝子(吉本)	10	短日26高42	今道裕美	3	短英1高16 旧職	高橋みどり(力丸)	3	高18	木村喜代子(井上)	10
大17日高35	佐藤節子(木内)	3	短日27高43	中村真理子(市村)	3	短日1高17	藤井久美子(木川)	3	高18	越智咲子(堀越)	3
大17語	田中七保子(石田)	3	短日27	田辺陽子	3	短英2高17	横山憲子(柿本)	3	高19	赤川伴子(小田)	3
大18日	野田和代	3	短英28旧職	佐々木理子(石川)	3	短英2高17	小原政子	3	高19	森本洋子	3
大18語高34	江後紀久子	3	短英29高44	小野佳子(江藤)	3	短日2	匿名希望	3	高19	松田ちづこ(山中)	3
大18語	河野行子(藤田)	3	短日30	濱崎典子(明知)	3	短日2	伊藤幸恵(武波)	3	高20	名切都子(荒川)	6
大19語	原田祥子	3	短日2日高53	中村容子	3	短日2高18 旧職	畠中節子(中島)	10	高20	大久保礼子(児玉)	3
大21英	大串厚子(野中)	3	短日4日高12	大澤宣子(高橋)	3	短英3高18	杉山和加子(荒井)	3	高20旧職	安成百合子(竹田)	6
大22日	秋山和代(酒見)	9	大1日高19 旧職	片山宣子(清川)	20	短英3高18	津田千鶴子(植田)	3	高20	村上美枝	15
大22日	山本朋子(原田)	3	大1日	中村百合子(中村)	3	短日3	前田千賀枝(植野)	3	高21	金沢寿栄子(富下)	3
大22日	田中純子(松田)	3	大1英	熊谷豊子(河野)	3	短日3高19	正文文恵(田中)	6	高21	飯沼菜保美(山村)	30
大22日	梅谷理香(吉原)	3	大1英高18	宝辺静子(久保)	3	短日3高19	松村和代(堀江)	10	高22	津江史子(中島)	3
大24英	富田志保	3	大1英	饗場英子(近藤)	3	短英4高19	福田裕子(中村)	3	高23	松隈紀子(木村)	3
大25日高43	永野実芳	3	大2日	堀田敏子(河野)	3	短英4高19	大野美加子(益森)	3	高23	中尾和子	3
大25語	越智亜紀子	3	大2日	井上知子(林)	3	短日4	柏谷登志子(榎木)	3	高23	中野正代(中野)	3
大26英	宇都宮英里子(坂本)	3	大2日	井浦ひとみ(原)	3	短日4高20	西村佳代(川村)	3	高23	下村幹代(藤村)	3
大32語	松尾里江子	9	大2英	石田邦子(神西)	6	短日4	横田敏子	3	高23	上田純子(村上)	3
大40英高58	石田真美	3	大2英	向野泰子(田島)	3	短英5高19	河崎百合子(坂本)	3	高24	村田小夜子(今橋)	3
院前英3大 英7高25	来見田恵子	3	大3英	内藤みゆき(白附)	3	短日5	大西恵子	3	高24	城一道子	3
院前日5 大日10	大塚順子(木下)	3	大3英	松井孝子	3	短日5	森川順子(平山)	9	高25	日野原静子(楠)	6
院前日10	澤山淑子	3	大3英	山本洋子(湊)	3	短英6高21	手島千恵子	3	高25	吉田真子(藤田)	3
院前日15大日20 旧職	久保田智栄子(今井)	3	大4日大2英 旧職	志保みはる	3	短日6高22	浜田洋子(中田)	15	高27	横田のぞみ(山中)	3
院前日18	松谷広美(松谷)	3	大4英	篠塚玲子(寺井)	3	短英7高22	西嶋和江	3	高27音	村山紀子(小木)	3
院後日6 院前日10 大日15旧職	宮田京子	3	大4英旧職	御厨ひろみ(長谷川)	3	短日7高23	鶴原津裕子(田中)	3	高28	中川道子(塚本)	3
			大6日短日8	平川典子(神峯)	3	短英8高23	川端佳子(梅田)	3	高28音	Naoko Corbi(永井)	3
			大6日高24 短日8旧職	林 由紀(寺本)	3	短英8	宮本隆子(児玉)	3	高29	平田静枝(井上)	3
			大6英	郡司島節子(立岩)	3	短英8	阿武弘美(佐々木)	3	高29	佐藤久美(林)	3
			大7日	篠崎真理子(篠崎)	3	短日8	檜崎美佐子(松本)	3	高29	宮本まり子(山本)	3
			大7英	香月順子	50	短日8	小山 文(宮下)	3	高29音	桃崎元美	3
			大7英高25	磯谷由美(林)	10	短日8	幡吉真弓(森川)	3	高30音	明田恵美(四方田)	3
			大8英高26	大本美智子(江崎)	3	短日8	中尾弘子(山内)	3	高31	長尾恵子(藤井)	3
			大9日	森田美智子(久原)	3	短日8	宮崎悦子(渡辺)	3	高32旧職	岩男晶子(鍋島)	3
			大9日	富田栄子(國米)	6	短英9	三井順子(国本)	3	高33	匿名希望	4
			大9英高27 旧職	西嶋俊香(畔地)	3	短英9高24	林 加代子	3	高33	木村円穂(清水)	3
			大9英高27	池田由美子(原)	3	短日9	大木場恵子(坂元)	3	高33	北村由美子(吉原)	3

卒業生総数	
梅ヶ崎	150
光城	80
梅光(旧制)	2,413
高・中	13,586
短大	13,996
大学・大学院	9,719
計	39,944
2019.3.31 現在	